
魔王様 in TOA

鬼灯 更紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王様 in TOA

【Nコード】

N1952P

【作者名】

鬼灯 更紗

【あらすじ】

女神様曰く「私とあなた（初代魔王）が作った別の世界の神々からヘルプコールが来たからちよつと行ってあげて」

ものすごく軽く告げられて何故かTOA世界へ魔王様+側近四名は出張する事に。

転生して救済したり、国家作って断罪したりと世界が滅びへ向かわないようになるまで何回か繰り返さないとイケないそうです。頑張れ、魔王様！

TOAキャラが救済されて性格捏造されたり断罪されたり厳しめ
だったり色々ある予定です。

これが全てのはじまり（前書き）

えーと……まさかの二次創作クロスオーバーです。

ぶっちゃけ、従妹におどs……げふげふ、頼まれて未プレイにも関わらず書いてます、はい。

ある程度のあらすじとかは教わってるのですが名称間違いとかはあるかもしれません。

魔王様本編も頑張りますのでよろしくお付き合いください。（ペこり）

これが全てのはじまり

きっかけは、珍しく魔界に直接、何の前触れも先触れもなく降臨した創世の女神様の発言だった。

曰く「私とあなたが創造した別の世界を任せてた神様達と、新しく生まれた神様見習いの子からヘルプコールが来たから、ちよつと行って助けてあげてくれないかしら？」

しーん、と静まり返る玉座の間、王座の真正面にいきなり出現した女神様だけがにこにこ笑顔を保っている。

「……別の世界？」

「ええ、そうよ。この世界の他にも、私とあなたが手がけた世界はあるの。でも、ある程度安定したらその世界が管理に最良の神々を自分で生み出すから、後を任せてこの世界に戻ってきたの」

「何故、ここにはいない？」

「ここは私達が生まれた原初の世界だから、管理に最良なのは私達なの」

何でも昔、管理だけでは有り余る力が暴走して世界を破壊しそうだった時に、この世界の基盤を元に幾つかの世界を創造したらしい。その世界のひとつを管理し、世界が滅びないように時に見守り、時に助言していた神々から自分達ではもうどうにもならないと泣きつかれたんだとか。

「具体的には？」

「何度やり直しても、世界を滅亡から救う為に生まれた子が絶望の

うちに死んでしまっらしいわ。仮に条件が整って再生出来たとしても、やっぱり不幸のまま。そして、最終的に世界は消滅してしまうの」

悲しげに語る女神様。

百聞は一見にしかずとも言っから、その助けを求めてきた神々が送ってきたらしい世界の事情と滅びまでの状況を見せてもらった。

感想はまあ……すさまじいの一言に尽きると思う。

とりあえずその世界の神が期待していたと言う子供の周囲からして突っ込み所が満載だった。人間のものとは多少異なるが、一応軍人の分類に入るアデイス達は絶句していたし、アイデアは笑顔でいながら米神が波打っている。

人間の国と付き合う過程で、ある程度の人間側の常識を学んでるからなあ。

「まさかここまで度し難い人間がいるとは思わなかった。と言うか、本当に人間か？あれらは」

「正真正銘、人間よ。むしろ、人間だからこそあそこまで醜悪になれると言っべきかしら」

「愚かを極めるとああなると言う最悪の見本じゃな」

「あんな奴らが軍人を名乗るなど……軍人への侮辱もいいところだ」

「同感ですね。為政者も為政者でありえません。何ですか、あの身贋祭り」

見事なまでに酷評しまくった後、魔大公と女神が俺の方を向いた。基本的に魔大公達は自分達に関わる者にしか関心を持たないが、流石に今の映像でそれぞれ思うところがあつたらしい。珍しく、関わる気満々だ。

まあ俺としても流石にあればどうかと思うし、放っておいたら世界そのものが消滅してしまうとあっては救助するのに否やはない。

ないが、その間の魔界がどうなるのかとか、向こうには魔族がいない上に魔法に制限があるっぽい事が俺達にどう作用するのかとか、気になる事が多々ある。

特に魔王も魔大公も不在の魔界がどうなるのかが非常に不安だ。

「行ってくれるなら、あなた達が戻ってくるまで時間の流れを止めておくわ」

「……支障が出るだろう、それは」

「出そうになったら物凄く遅くして流れさせるから大丈夫」

かなりあつけらかんと宣言されました。

いい加減に聞こえるが、この世界を維持する女神の言に間違いはない。

向こうの魔法も制限なく使えると言う事と、こっちで普通に行使している魔力も使用可能と言う事を教わった直後、問答無用な女神様によって強制的に送り出された。

最後に見たのは、いきなり転送陣をそれぞれの足元に展開した女神様のとてつもなくイイ笑顔だったと言っておこうと思う。

これが全てのはじまり（後書き）

まさか未プレイゲームの二次をオリジナル作品と混合で書く事になるとは思いませんでした。

情報源が従妹とwikiなので間違いも多々あるとは思いますがご容赦ください。

魔王様 in キムラスカ - 1 (前書き)

メインは魔王様視点で、魔大公サイドは番外っぽく書いていこうと思います。

くどいようですが未プレイですので、多少の矛盾はご容赦ください

女神の頼みで異世界に来た俺は、元の世界で見た情報では予言を妄信しまくっていた国の第一王子ルシファード・アキラ・キムラスカ・ランバルディアとして転生した。あ、勿論記憶は持ったままだ。じゃないとこれからの未来を変えられない。

が、転生して早々、物心ついたあたりで記憶が戻るように細工すればよかったと後悔した。赤ん坊のあれこれを想像してもらえばわかると思う。かなりな羞恥プレイだった。

こればかりは他の四人は俺以上に衝撃が強かったらしい。まあ、あいつらは元々赤ん坊って言う概念がない種族だからなあ。いるにはいるが、生まれた時からある程度自力で動けるし、魔力も使える。人間の赤ん坊と違ってその頃は魔力のみが糧らしいから、ぶっちゃけ排泄がない。

そんな訳だから、人間の赤ん坊体験は四人が四人ともショックだったようだ。

ちなみに、俺がキムラスカの第一王子になったように、魔大公達もそれぞれ各地で生まれたらしい。

皆、俺より早く生まれたようで、この世界では俺達だけが使える魔力を用いた専用回路で誕生を祝ってくれた後、羞恥プレイを労わってくれた。

イデアはマルクトの伯爵家の長男。イデア・デメテル・ネイスと言っらしい。俺が生まれるより先に弟が出来、その時初めて赤ん坊を見たらしく、あまりに小さく脆く弱弱しいので驚いたと言っ

た。

ボソツと「赤ん坊って可愛いんですね」ともらしたアイデアが「欲しいならエレノアと子作りしろ」とレジフから直球で返されて奇声を上げていたのは懐かしい思い出である。合流した時が怖いとも思うが。何気にアイデアはきちつと報復するまで覚え続けるタイプだし。そんなレジフはダアトの守護役長の息子として生まれたらしい。

が、誕生が予言に読まれてなかったと一悶着あり、結果として母子共々ダアトを去り、今はセケドニアで傭兵をしてるとか。ダアトの依頼だけは受けないと公言してるらしい。いいのか、それ。

アデイスもマルクトに生まれている。アデイス・カーティス。ごろが悪いとばやき、そう遠くない未来に非常識な義弟を持つ羽目になるのかと凹んでもいた。

アースラはなんとホドの領土であるフェレス島の領主、フェレス家の長男らしい。アースラ・ノースフェル・フェレス。ノースフェルノースフェルトウってひょつとせんでも不死者の事だろうか。

四人とも「普通より少し出来がいい」程度の猫を被ってるらしい。まあ本気出したら世界が滅びかねないしな。

ちなみにこの世界に来る前、女神様に強制転送されてる時に「ある程度なら好きにやれ」と言い渡してはあったが、アイデアが弟を虐待した子供を半殺しにしたらしいのには驚いた。何につて、弟を可愛がってたらしいアイデアに。専用回線で報告中、回線を通じて怒りが伝わってきて、怒りの深さと弟への思いの深さが窺い知れて、俺もアースラ達も実は驚いていた。

この半殺し事件の後、件の虐待実行犯は目に見えて大人しくなり、常識を学んでまともになったらしい。何度もやり直して失敗してきた記憶の濃いローレイ（向こうの女神曰く「神様見習いの子」）が涙ながらに喜んでいた。どう頑張っても非常識じゃなくならなかったらしい。どんだけだ、それは。

《転生後のそれぞれの名前と行動の軌跡&周囲の変化：それぞれの転生開始～魔王転生直後まで》

俺：ルシファード・アキラ・キムラスカ・ランバルディア

キムラスカの第一王子として誕生。予言に詠まれてない子供なので教団から苦情殺到するも国王が一喝。

めでたい世継ぎ誕生にも関わらず予言の有無を持ち出してきた教団に国の上層部が疑問を抱き始める。

イデア：イデア・デメテル・ネイス

マルクト帝国ネイス伯爵家長男として誕生。

3つ年下の弟は目の中に入れても痛くないと言っ可愛がりっぷり。でも叱る所はちゃんと叱る。

自他共に認めるブラコン。

雪国で弟を虐待した馬鹿に笑顔で初級譜術をかましまくり、殿下とセツトで説教したら懐かれた。

レジフ：レジフ・ドラグナー

ダアトで守護役長の息子として誕生。

予言に詠まれてなかった為に色々騒がれ、最終的に母子共にダアトを去る。（予言遵守派がうるさすぎて母親がキレたから）

ケセドニアの傭兵ギルドで「ダアトの依頼は絶対に受けない」変わり者の凄腕傭兵として有名に。

砂漠の獅子王バダックとギルド繋がりで知り合った。

アースラ：アースラ・ノースフェル・フェレス

フェレス島の領主の長男として誕生。

魔王転生時点で特筆すべき軌跡はない。領主の息子として勉学と鍛錬に励んでいる。

アデイス：アデイス・カーティス

マルクトのカーティス家に長男として誕生。

未来の義弟が常識人に矯正された事実はひっそり喜んでいた。

こちらもアースラと同じく特筆すべき軌跡はない。文武両道目指して父親にしごかれている。

魔王様 i n キムラスカ - 1 (後書き)

ある程度 w i k i で勉強してますが、間違いとかあったらご指摘ください。

最初は五人ともバラバラに転生して「その世界の人間」として世界を変えていく予定です。

さーて、どこまで救済できるかなー！。

魔王様 in キムラスカ - 2 (前書き)

感想ありがとうございます。励みになります。

情報少ないから書きにくいけど頑張ります。

とりあえず、オークランド一家(祖母除外)救済完了です。

魔大公サイドとか書いてみたいんですが、そっちは余計情報がないんですよね……

最近城内が浮き足立っている。母である王妃が産気づいたのだ。

ローレイ曰く「すり替えられた王女が生まれる」

そこら辺はあまり詳しい情報がなかったから、多少反則だが魔力の目を周辺に散らばして様子を伺っていたら、何故か布の塊を抱いて人目から逃れるようにコソコソと出て行く年嵩の侍女を見つけた。声をかけようかと思ったが場所が遠く、それよりも侍女の行く先に近い城門で見覚えのない男を宥めているレジフと、困惑気味の門番を見つけたからそっちに向かう事にした。

そっちのが近いし、そこからなら侍女が通るのが見えるから問題ない。

「何をしてる？」

「ルシファード殿下！？いえ、この者が……」

「通してくれ！俺の子を返してくれ！」

「落ち着けと言ってるだろう、バダック。それじゃわからん」

淡々とズバツと突っ込まれて、ようやく我に返ったらしく、バダック・オークランドと名乗った男は慌てて礼を取った。レジフは突っ込んだ直後に取っているから、立つ許可と発言許可を出す。じゃないと話が進まない。

「……つまり、妻の産んだ赤ん坊を連れた義母が城に上がったのを

見た者がいた、と？」

「はい。義母は昨夜、俺達の子を見て予言がどうこうと呟いていたので……」

不吉な予感が拭えず、いてもたってもいられずに城まで突撃してきたらしい。

そうこうしているうちに、不自然な布の塊を抱いた侍女がそこそと門番の視界に映らない位置を通っていく。が、そこばかり見えてるからな、俺には。

「母上付きの侍女が、どこへ行く？」

「で、殿下！？」

何でここに！？的な顔されましたがそれはこっちの台詞だと言いたい。

明らかに不自然な荷物について尋ねると、途端に言葉に詰まった。見せると王子として命じるが、動かない。まあ見せれる訳ないわな。門番とバダック、レジフに許可を与えて乳母を拘束させ、布の塊を奪い取って開く。窒息寸前の暗い赤い髪の赤ん坊が出てきた。微弱な癒しの魔力をかけておく。

「……お前の子か？」

「いいえ、髪の色が違います」

「なるほど。では、誰の子だろうな？今、城内で赤ん坊を得るのは我が母にしてキムラスカ王妃のみなのだが……」

じつと侍女を見る。俺の言葉を聞いたバダックや門番も侍女を見る。

ガタガタ震えてた侍女は、俺が抱いている赤ん坊が小さく泣き声をあげたのを聞いた途端、狂ったように暴れだした。拘束する男の

手を解こうと暴れ、必死にこっちに手を伸ばしてくる。

「放しなさい！予言に詠まれているのです！その子供は死産！我が孫こそ王女と！予言に詠まれているのです！！その子供は死産でなければ！」

「何と言つ事を……！」

「……捕らえよ。王の前で証言して貰う必要がある。自害には十分注意しろ」

「はっ」

「バダック、レジフ。ついて来い」

二人を連れて向かったのは産みの母の所。都合よく父王もいたからさつくり暴露した。ついでに、元々身体が弱く、二度目の出産で体力低下してる母に微弱な癒しをかけておく。いきなり完治は不自然すぎて出来ないのが痛い所だ。

丁度寝付いた所だったらしい赤ん坊の髪は明るい茶色。バダックに見せると、自分の子だと頷いた。

さて、予言にない俺と言う存在が生まれた事で予言に懐疑的になつていた上層部は、今回の王女すりかえ事件でまた予言から離れた流石に血統重視してるから予言>血統にはならなかったようにホツとしてる。

そこで問題になったのが乳母予定だった侍女とその娘一家の処遇。侍女は完全にアウトだが、娘一家は予言の被害者。キムラスカの法律には連座制つてもものがあるが、いくらなんでもそれは酷すぎるだろうと上層部は思ったようだ。

予言予言言ってるのは実行犯で予言狂の侍女だけで、赤ん坊を奪われた母親は半狂乱で入水しかけたらしい。迎えにやった兵士が寸での所で間に合い、事情を説明した事で思いとどまったと聞いている。

で、どうなったかと言うと、乳母予定の侍女は処刑された。流石に王女すり替え云々を公表するのはダアトの詳しい出方がわからない以上まずすぎるから、表向きは別の理由で。

バダツクはキムラスカの密偵としてダアトに潜入し、シルヴィアは生まれた王女、ナタリア付きの乳母。すり替えられかけたメリルはナタリアの乳兄弟兼影武者って事になった。

レジフはケセドニアで傭兵を続けつつ、ダアトを探ったりバダツクと連絡を取る役目を自ら言い出した。

《転生後のそれぞれの行動の軌跡&周囲の変化：魔王転生→王女誕生まで》

ルシファード・アキラ・キムラスカ・ランバルディア

真面目に王子として勉学に励み、武術にもせいをだす。

キムラスカの未来は安泰だと重臣達が喜ぶぐらいには有能。

予言が詠めない上に予言に詠まれていない生まれなのでダアトの予言遵守派には目の敵にされている。

実は暗殺未遂が何度かあるが、ダアトが関与した証拠がないので全て闇に葬った。

1～7の音素全てに適正がある。

微弱な癒しだった筈なのに目覚めた王妃はえらく健康に（実は魔力と音素じゃ威力が天地の差）

イデア・デメテル・ネイス

何故か早々と親が引退したので伯爵家を継ぐ事に。笑顔は標準装備。

弟への虐待でキレた結果懷かれた子供と殿下と子供の妹を弟と纏めて教育中。

私塾を開いてる女教師への評価は低い。「教育者が研究者の自身を優先してどうします」との事。

弟以外の雪国の人間はどうでも良く、弟がせがむから一緒に面倒を見ているだけなのに何故か面倒見の良い伯爵様と言う認識。

レジフ・ドラグナー

嫁に子供が出来たと聞いてバダックを祝いに来たらすり替え事件に巻き込まれる。

バダックとは対等に物を言い合う年の離れまくった友人関係。

バダックが義母の罪を償うべくダアト潜入を決めた時に連絡係に立候補。

傭兵だからどこにいてもおかしくないと言う事で連絡係。

アースラ・ノースフェル・フェレス

島国に住んでいるので他の面子+魔王と接触できずにやきもきしてる。

ある程度成長したら見聞の旅と称して飛び出す気満々。

早々に魔王と接触できたレジフが実に羨ましい今日この頃。

島に妊婦が出る度に覗きに行ったり、生まれた赤ん坊の相手をしたりするので子供好きと評判になってたりする。

アデイス・カーティス

問答無用で軍学校に放り込まれたものの、軍人の家系だと知っているから特に文句もなくすごしている。

軍内部で高名なカーティス家の嫡子なのに家名を鼻にかけない真面目な姿勢に慕う者多数。

魔王様 i n キムラスカ - 2 (後書き)

レジフが一番最初に魔王様にたどり着きました。

専用回線でアースラがギャーギャー言ってると思いますw

魔王様 i n キムラスカ - 3 (前書き)

魔王様大忙し。

出来るだけ助けてほしいと言うローレライの願いを叶えるべく奮闘中。

時系列がちょっと怪しいのはご容赦ください。

俺が国政に関わり始めてしばらく経った頃にホドが崩落した。少年ジェイドが発案したものの、イデアによって止められたフォクミリー情報を他の誰かが預言狂の皇帝に奏上した結果らしい。

専用回線でイデアとアデイスがマルクト見限りたいとききりに言っているのを宥めつつ、難民救助に東奔西走する日々だ。

イデアとアデイスもそれぞれ頑張っているらしいが、落としたのが自国の皇帝の為にそう大っぴらには活動出来ず、歯痒い思いをしているのがよくわかる。だからって専用回線で物騒な事をのたまってくるな。

アースラも今すぐ皇帝を殺しに行きたいと物騒な事をのたまっている。何でも、近々妹が弟が誕生する予定だったらしいが、崩落の時に母親と離れ離れになって今も見つからないらしい。何だかんだでアースラにも兄馬鹿要素があったようだ。……うん、何も言うまい。

フェレスの長男と言う事で、アースラにもホド・フェレスの難民をまとめる役割をもらっている。おかげでほとんどの難民を俺の所かイデア・アデイスの所かアースラの所で保護する事が出来た。勿論、ガルディオスの姉弟と盾の騎士も。彼らはイデアの所にいる。姉はともかく、最悪な未来の紡ぎ手となった弟の方は保護したくなさそうなイデア達に、最年長の改善が可能だったのだから二人にも変わるきっかけをとローレライが願ったのだ。なので、崩落が知らされるや否や二人は率先して私兵を率いてホド跡地に向かい、見

事三人を保護する事に成功した。

実を言えば、キムラスカはホドに兵を差し向けていない。

にも関わらず、イデアが保護したガルディオス弟はキムラスカのファブレ公爵に復讐するのだと喚いたと言う。直後、怒りに打ち震える姉から渾身の平手打ちを食らって吹っ飛んだらしいが。

……話がそれた。

出兵していいにも関わらず、キムラスカ兵が目撃されていたと言う事実にはキムラスカ上層部は揺れた。この目撃情報はこつちで俺が保護した難民からのものだから信憑性は高いとされて、一体どう言う事だと調査に乗り出した上層部は、今はラルゴと名乗っているバダックからの手紙で神託の盾兵がキムラスカ兵に扮してホドを襲った事を知った。

ただでさえ俺の誕生でダアトと預言に疑問を持ち、ナタリアすり替え事件で一気に懐疑的になっていた上層部はこれで完全にダアトを……と言うより預言と預言遵守派を敵とみなした。

陛下やファブレ公爵が、毎回会議をする度にダアトへの寄付金をもっともらしい理由つけてガンガン削っている。流石にダアト在住の一般市民に罪はないから、寄付金零だと彼らの生活がまずいんじゃないかと尋ねたら、キムラスカから社会勉強と称してダアトへ行ってる貴族の子息女達が現地で雇用して給金を払ってるから大丈夫だと物凄くイイ笑顔で言われた。

さて、元々キムラスカには手付かずの土地が多い。痩せ過ぎて作物が育たないからこそ放置されてるんだが、逆を言えば手を入れたら使えるようになる空き地が多いって事だ。

まず、ほったらかしになってた直轄地に長屋を建てて雨風が凌げ

る場所を確保した。第一王子の権力をフル活用して労働力の軍人と衛生面確保の為に第七音素譜術師を集めて難民キャンプから難民を誘導。

ケレドニアギルドに依頼して、エンゲーブからかつて農業に携わっていたご老人を講師として招いたり、ベルケンドから研究者を数人引っ張ってきて土地改良の研究や痩せた土地でも育つように品種改良してもらったりと、あれこれやった。

その結果、難民誘導から一年後には自給自足が出来る畑が出来た。エンゲーブから招いたご老人が感無量って顔をしてたのは記憶に新しい。何故か孫夫婦（現役農家）呼び寄せて住み着いて、まだ若干へつぴり腰なホド・フェレスの大人達の指導に励んでくれている。

そんな簡単に移住していいのか、と思わなくもないが黙っておく。沈黙は金。

最終的に引っ張ってきた研究者まで農業に目覚め、他の土地にも畑作を広めてくると言って飛び出してしまった。護衛はつけたけどな、あの人ら戦闘力皆無だし。まあ、そのおかげであちこちの土地が土壌改善されたりその土地に合った作物が品種改良で作られたり。エンゲーブ程じゃないが、エンゲーブにばかり頼らなくてもすむようになってきた。

誘導した当初は表情が硬かったホド・フェレスの民達も、最近では笑顔や穏やかな表情を浮かべられるようになってきたのが嬉しい。イデア達の方でも、徐々に明るさを取り戻しているそうだ。

《転生後のそれぞれの行動の軌跡&周囲の変化：王女誕生、ホド崩

落後難民救助まで

ルシファード・アキラ・キムラスカ・ランバルディア

幼くして政務に関わり、一風変わった視点で画期的な原案をいくつも出す。

寺子屋もどきを建て、現役を退いた文官などに声をかけて子供達に無料で簡単な読み書き計算を教える。

ホド崩落後、いち早く難民受け入れの態勢を整え、周囲の大人を感嘆させた。

政務に武芸に励みながらも、兄として妹姫の相手も忘れないので兄妹仲は良好。

影武者兼乳兄弟兼護衛のメルルは兄妹至上主義とかなんだとか。

イデア・デメテル・ネイス

順調に伯爵業をこなしつつマルクト内で地位を高めている。

ホド崩落の報せが届くやいなや私兵を自ら率いて救助にあたり、アデイスと（計画的な）初対面を済ませ友人となる。

ガルディオスの遺児を無事保護したものの、嫡子のアホっぷりに呆れてたら姉はまともだったと判明。

甘ったれでお子様な弟に対してしっかり者で気丈な姉。ネイス家の領地の一角を開放し、そこに保護。

姉がガルディオス再興を目指すなら後見人になってもいいかな、とか考えるくらいには気に入った。

サフィールとジェイドを軍学校に放り込む。

レジフ・ドラグナー

ダアト潜入中のバダックの所に友人のよしみでよく顔を出し、その都度報告書を預かってキムラスカに届ける配達人を地味に続行中。すっかりエベノスに見つかって信託の盾兵に誘われるもすげなく断る。

ユリアシティへの物資運搬の仕事を、依頼はダートからだが場所がダートじゃないからと無茶苦茶な理由をつけてアスター氏に受けさせられる。

丁度ホド崩落後で、人殺しを予言成就と褒め称えられて苦悩するヴァンと出会う。

「外」の人間と言う事でホド崩落の事実を聞かされ、正直に感想を述べたら号泣。後、懐かれる。

アースラ・ノースフェル・フェレス

フェレス島の民は気に入っていて、母親の懐妊に一番喜んだのだが崩落で離れ離れになって半狂乱。

散り散りになったフェレスの民をキムラスカから援助を受けて集めてまとめつつも母を捜し続けている。

定住生活を求める者はイデア達の所や魔王の所に送り、定期的に連絡を取りつつ各地をふらふら。

逆にイデア達の所や魔王の所から合流者があつたり。そのうち漆黒の翼とかになったりしそうな勢い。

アデイス・カーティス

グレン・マクガヴァン。アスラン・フリングスと言った後輩が出来る。

実は軍学校の同年代以降から「兄貴」と慕われてたり。

ホド崩落直後にカーティス家の私兵を率いて救助に馳せ参じ、専用回線での打ち合わせ通りにイデアと初対面をすませる。

こちらもカーティス家の領地の一角を父から譲り受けて開放。軍学校の休みを利用しては様子を見に来るので慕われている。

魔王様 i n キムラスカ - 3 (後書き)

気付けばアースラが兄馬鹿候補に……あれ？
人間生活が新鮮だったようです。

魔王様 i n キムラスカ - 4 (前書き)

まだ原作が始まらない……

最近毎日忙しい。

最初は難民に土地を提供して、自給自足してもらった土地改良だったり品種改良だったりしたんだが、今では彼らや失業者を雇って陛下から俺に下賜された土地で大規模な農場が出来たりする。発展してる譜業をフル活用してビニールハウスもどきを作ってもらったり、ハウス内部の温度調整が出来る譜業を研究・開発してもらったりと思い付きが形に出来ないかあれこれ試行錯誤して頑張った。

その結果公務が増えたんだがそこに文句はない。あまり構えなくてナタリアやルークに拗ねられたのは痛かったが。

「ルシファード殿下、新しく植えた根野菜が収穫出来たようですよ」

「……そうか。調理は？」

「煮る、炒める、揚げる、蒸かす。全てに二重丸がついていますが、生は無理のようですね」

「なるほど。新しい畑の整備が終わり次第、その根野菜は量産でよさそうだな」

「はい。そのように手配してあります」

と、こんな風にあれこれ食べ物を生産して、キムラスカの食事情を豊かにしている。エンゲープからの輸入がなくなった訳じゃないが、完全におんぶに抱っこじゃなくてもよくなった。これだけでも大分違う。何せ輸入オンリーだった時代より売値が下げれてるから

な。

他にも音素に頼らない別のエネルギーの開発とかも進め 중이다。

「失礼いたします。殿下、陛下が呼びです」

「わかった」

決裁しなければならぬ急ぎの書類を片付けて席を立つ。あー、座りっぱなしだったからあちこちゴキとかバキとか言ってるわ。補佐をしてきている貴族達に決裁済みの書類を各部署に届けたら休憩しろと告げておいて（じゃないと無茶するから）足早に父王の待つ部屋に向かう。

予想通り、ファブレ公爵一家と妹、そして妹の影武者兼護衛の少女と、勢揃いしていた。

「遅くなりました」

「いや、急に呼びつけたのはこちらだ。気にする事はない」

席に着くと、すかさずメリルが薫り高い紅茶を淹れてくれた。毎回、律儀に目の前で毒見もしてくれるのがちよつと心苦しい。いや、使用人として当然の行為だって返されるのはわかってるし、行為の意味を理解してるんだが、転生しようが魔王のままの俺には人間の毒なんて効かないし。

「……メリルの淹れるお茶は相変わらず美味しいな」

「光荣です」

淑やかに頭を下げる姿は流石影武者も務めるだけあって気品に溢れている。将来二人とも美人になりそうだなあ、と兄馬鹿な事を考えつつ紅茶をもう一口。

「ダートから何か言ってきましたか？」

「うむ。導師より直々に書簡が届いた」

どっかの樽、もとい大詠師がルークの事を聞きつけて秘預言暴露しにきた時、貴族達が勢揃いしている大広間でローレライがやらかしてくれた。預言離れが著しいから大丈夫だろうと、俺に惑星預言を詠ませたのだ。第七音素の素養はあるから無理じゃなかったが、別の意味で大広間が荒れた。何せ消滅預言だしなあ。

モースは騙りだの何だのと喚きたてたから丁重に兵士の手で大広間から摘み出された。その後、俺が詠んだ事で出現した譜石を一部砕いた物と一緒にダートに送り返され、反応を待ってたんだが、どうやら真つ当な反応が返ってきたらしい。

「……大詠師が虚偽と断じるかと思いましたが」

「導師以下、全ての預言士が譜石の破片を本物と判断しては何も言えまい。手紙にはユリアシティなる場所から来たユリアの子孫を名乗る男も内容を肯定したと書いてある」

「そうですか。では、マルクトにも？」

「そちらへは導師が送ってくださいさるそうだ。我が国から送るよりは良からう」

父王の言葉にひとつ頷いてまた紅茶を一口。空になったカップに、即座にメルルがおかわりを淹れてくれた。ほんとに有能だな、この子。てか、ユリアシティから来たユリアの子孫で……ヴァンか？そう言えばレジフがダートの導師に秘預言暴露に行くとか言ってると言ってたな。だから俺に惑星預言詠ませたのか、ローレライ。

早々と消滅預言がわかったから、キムラスカは国を挙げてこれを回避する為に動き始めている。シェリダンでは飛行譜業の開発に力を入れるように特別に予算が組まれ、鉦山の街アクゼリユスで発

生したと言つ煙が毒なのではと言つ意見が出た為、ベルケンドの学者達が護衛付で赴いている。大っぴらに兵士を動かすとマルクトを刺激しかねないから、護衛役はケセドニアギルドで傭兵を雇った。

「お兄様、ローレライはお兄様に何か言つてきますの？」

「消滅預言以降は何も。恐らく、滅びを知った人間達がどう動くか、様子を見ているんだろう」

「試されている、と言つ事でしょうか？」

「……多分な」

実際には、いきなり秘預言を詠まされて乱れた俺の魔力を心配した魔大公達から、たまたまローレライにも繋がった専用回線経由で本気の殺意が集中したから、それに怯えて引ッ込んでるのが正しいんだが、素直に告げるとややこしくなるので適当に理由をでっち上げておく。

《転生後のそれぞれの行動の軌跡&周囲の変化：ホド難民救助ルーク五歳ぐらいまで》

ルシファード・アキラ・キムラスカ・ランバルディア

直轄地を整備して難民に解放し、一部を農場として開拓している。キムラスカの食料庫。

失業者や受け入れた難民を主に雇っているので雇用問題も解決しつつある。

ルークの超振動制御訓練は魔王立会いのもとで行われているので

余計な事はされていない。

ルークとナタリア、メリルの三人はいずれ王となる魔王を支えれるよう頑張っている。

ルークの事でモースが秘預言暴露に來た際に魔王が惑星預言を詠んだ事でキムラスカの方針が決まった。

後にヴァンがレジフと導師を伴って訪れ、消滅預言回避の為に尽力する仲間となる。

イデア・デメテル・ネイス

難民達の身の振り方に出来る限り選択肢を増やせるよう頑張っている。

マリイベルがガルディオス復興を願い出たので後見人に。

弟の身の振り方を悩む姉に社会勉強させればと言う意見が出る。

丁度ダアト経由で消滅預言が齎され、戦争どころじゃないと和平が望まれたのでマリイベルは笑顔で弟をキムラスカへ送り出した。

人質兼社会勉強の名目でファブレ公爵家預かりに。姉とイデアがしっかり教育したので復讐心はない。

ジェイドの養子縁組話は「自分で考えなさい」と本人に丸投げした。

レジフ・ドラグナー

ダアトだけでなくユリアシティにも何度が足を運んで地味に調査書をキムラスカに送っている。

何故か懐かれたヴァンに稽古ついたり「外」の様子を教えたりユリアシティの事を教わったり。

ヴァン妹の出産に何故か立ち会わされ、地上に帰還する際に預けられる（ヴァン母は出産直後に死亡）

レジフの義妹と言う事でレジフの母がケセドニアで育てる事に。

魔王が消滅預言を詠み、それがダアトに届いたのとはほぼ同時にヴァンが入団。これ幸いとユリアの子孫と明かし、預言の信憑性を肯

定した。

アースラ・ノースフェル・フェレス

ナム孤島に居を構え、各地を巡回するサーカス団を作り、構成員の一部が『漆黒の翼』となる。

方々で様々な情報を集めれるので魔王達の貴重な情報源。

実はひっそり魔王やアイデア達から援助を受けてたりする。

魔物に襲われた旅人を助けたりしてるので義賊として知られ始めている。

アデイス・カーティス

アイデアの教育の賜物か、かなり真面目で有能な義弟（ジェイド）が出来る。

知り合って日が浅いのにアイデアと親密なのを羨ましがられて苦笑するしかなかったらしい。

軍学校卒業後は普通に軍に入る。特例を嫌い、一兵卒からたたき上げ。

たまにジェイドに稽古をつけてやっている。

魔王様 i n キムラスカ - 4 (後書き)

未来の髭謡将と妹救済。

この転生編は出来るだけ救済していく、がコンセプトです。

この転生編が終わったら別バージョンで敵し目も書こうかと思っています。

魔王様 i n キムラスカ - 5 (前書き)

やっとこレプリカ作成です。

捏造しまくったせいで本編からかけ離れてますね、きっと。

消滅預言をマルクトに告げた結果、いくら預言狂でも流石に自滅願望はなかったようでマルクト皇帝もまともな対応をよこした。しかし、いきなりダートと敵対するのは国内外の預言遵守を掲げる輩の動向がわからないから、ケテルブルグにいる皇帝になると詠まれた息子に事情を話して譲位するらしい。

こうしてピオニー・ウパラ・マルクト九世が誕生した。アイデアも一緒にグランコクマに文官として引き抜かれたらしい。高位にいたら亡命がし難いじゃないかと専用回線でぶつぶつ言っている。まだキムラスカ来るの諦めてなかったのか。

で、現在俺とファブレ公爵と公爵家お抱えの私設騎士団はコーラル城へ来ている。誘拐されたルーク・フォン・ファブレの行方を追って来たんだが……正直、予言遵守派って馬鹿じゃなかるうか。

「……殿下、この子供は一体？」

「そこで伸びてる連中を尋問すればわかるだろう。……ルーク、無事か？」

「はい、義兄上。少しだるいですが、それぐらいです」

明らかに怪しい機械と、そこにいたルークによく似た、けれどルークより淡い色彩の子供。

とりあえず機械の方はベルケンドから信頼できる科学者を引っ張ってきて調査させる事にして、俺達はルークとルークのそっくりさ

んを連れてカイツールへと向かった。あそこを任されているアルマ
ンダインは信頼できる將軍だ。

「……あゝ、う？」

「赤ん坊のよう……」と言うよりは、そのものだな」

「身体の大きさは俺と同じなのに、ですか？」

どうやら懐かれたようで、猫のように膝の上にルークのそっくり
さんが乗り上げて寛いでいる。公爵とアルマンダインの顔が面白い
事になってるし、ルークはちょっと不機嫌だ。ベルケンドから科学
者を護衛してやって来たガイはどう反応したらいいのか困っている。

「確かレプリカ理論と言う論文があっただろう。第七音素のみを使
用して、対象そっくりの生き物を複製するとか言う」

「それが、そいつだと？」

「おそらく……いや、確実にそうだな。ローレライが肯定した」

一段と不機嫌になったルークに、ルークの複製と言うより新しく
生まれた赤ん坊だと説明して納得してもらうまでが長かった。なま
じ見た目がルークと同じ年頃なのも悪かったのだらう。

コーラル城の機械を調べた科学者が、あれはレプリカを生み出す
フォクミリーという物で、あれで作れるのは外見だけで中身は赤ん
坊だと言う報告書を届けてきたのを見て漸く納得してくれた。

ちなみに叔母上は二人目が望めない身体だったからか、赤ん坊同
然の子供を見て息子がもう一人出来たととても喜んでいた。嬉々と
して名前を考え、あつという間にルークの兄弟として迎える為に書
類を整えた手腕は見事の一言に尽きる。

何だかんだでルークも『自分の複製』ではなく兄弟として見れる
ようになったようで、歩行訓練や簡単な読み書きを楽しそうにナタ

リアやメリル、ガイも交えて教えている。俺も時々混ぜてもらっているが、公務が忙しくて滅多に時間が取れないのがやや切ない。

ルークは、アツシュ・^{ルーク}Ｌ・フォン・ファブレ。ルークから生まれたレプリカの子は、ルシエラ・^{ルーク}Ｌ・フォン・ファブレと、それぞれ「ルーク」以外の名前を新しく与えられた。ついでにルシエラは男の子じゃなくて女の子だったらしく、それを知ったルークもといアツシュが兄馬鹿になった。

そのうち「俺を負かす奴じゃなければ妹はやらん！」ぐらいは言い出しそうだとナタリアが笑いながら報告してくれたんだが……実はファブレ公爵がすでに同じような事を言っていたりする。血筋つてすげえなあと思う今日この頃だ。

《転生後のそれぞれの行動の軌跡&周囲の変化：ルーク五歳ぐらい
→ 預言の年の一年前まで》

ルシファード・アキラ・キムラスカ・ランバルディア

預言遵守派がルークを誘拐。コーラル城でレプリカを作成するも駆けつけた魔王達に捕らえられる。

レプリカルークはルシエラと言う名を与えられ、ルークも新たな名を得て兄妹となる。

赤ん坊だと周囲もわかっているので一から丁寧に色々教えた結果、すくすく賢く育つ。

預言の年まではルシエラとアツシュが二人で『^{ルーク}聖なる焔の光』を演じて過ごす事になった。

明らかに髪の色が違う二人なので、気付く人は気付いている。

魔王はたまに視察と称して各地を回る。ケセドニアにも顔を出すのでレジフ一家とは知り合い。

イデア・デメテル・ネイス

ぶつぶつ言いつつも真面目に文官の仕事をこなしてたら気付けば宰相補佐に昇格していた。

何だかんだで軍に入ってきたジエイドを笑顔でしごきまくっている。

サフィールは譜業の専門家としてキムラスカに留学。

アクゼリユスの瘴気問題その他諸々の解決法を日夜模索している。

レジフ・ドラグナー

ヴァンとティアから兄として慕われつつ傭兵生活。

相変わらず不定期にダアトを訪れては配達人もやっている。

預言遵守派が導師不在を誤魔化す為にレプリカを作ると聞いてヴァン共々ザレッツホ火山へ。

剥離していないレプリカとオリジナルイオンの救出に成功。導師を探しにきたアリエッタも合流。

同じ頃、ダアトで栄養失調で瀕死の少女（アニス）を拾い、纏めてケセドニアの母に預けた。

血縁ではないがどんどん家族が増えている。たまにやってくる魔王も兄として慕われてたり。

アースラ・ノースフェル・フェレス

各地をぶらぶらするサーカス団から、時たまふらりといなくなつては妙な知り合いを増やしている。

ライガクイーンとも何気に知り合いで、アリエッタは可愛い妹。

久々に訪れた森で、アリエッタが人間に無理やり連れて行かれたと知って怒髪天をついたものの、ダアトで守護役として生き生きと頑張っているのを見て渋々連れ戻すのを諦めた。

アデイス・カーティス

マリイベルのガルディオス復興に手を貸す。

新たに下賜された土地の整備や簡易住宅の建設、ホド・フェレスの民の移動等。

カーティスの領地に残りたいと言った民もいたらしい。

叩き上げでどんどん昇格して今や中將。下士官からの支持は凄まじいものがある。

アイデアと並んで文武の双壁と呼ばれているが、二人とも非常に微妙らしい。

魔王様 i n キムラスカ - 5 (後書き)

従妹の希望でレプリカルークを女の子にしてみました。

なんでしたっけ、大爆発？防止策だそうです。

男同士だと完全同位体だから被験者に乗っ取られるとか何だとか。

そしてイオンズとアニスも無事救済。ケセドニアのレジフの実家はかなり賑やかな事でしょうw

魔王様 i n キムラスカ - 6 (前書き)

お待たせいたしました。やっとこ更新です。

駆け足なのはところどころ知識が怪しいからだったりします(苦笑)

何だかんだで俺が詠んだ秘預言の一年前。

アクゼリユスの瘴気は既にレッドゾーン突入してるし、坑道の奥に見つけたセフィロトを調べた結果、耐用年数がそろそろギリギリで何時落ちてもおかしくないとわかった。預言通りにするつもりは更々ないし、さっさと降下させた方がよくないかって事になったんだが、何種類かの封印を解かなければ操作が出来ないらしい。

ダアト式はレプリカ情報を抜かれた後遺症もなく、すっかり健康になった被験者イオン改めオリオンがさっくり解いてくれたし、ユリア式はヴァンとティアが自分達がやると言っている。問題はアルバート式だったが、これは意外な物が解決した。ファブレ公爵家に来る時にガイが姉のもとに置いてきた、先祖代々伝わる宝刀ガルデイオス。

ガルデイオス家を興した祖先アルバートから伝わっているとかで物は試しつて事で取り寄せてアルバート式封咒に接触させたらあっさり解けた。

「では、ユリア式は私が」

「……ヴァン、飲んでおけ」

「これは？」

「瘴気中和薬」

「ユリア式が刻まれているパッセージリングは、瘴気に犯されている事が判明していますからね。操作の際に瘴気を取り込む危険性が

あるんですよ」

何かの譜業を操作しつつサフィールが説明する。素直に薬を飲んだヴァンに、今度は無言で制御用のキャパシティコアを取り付けた。何でも体内のフォンスロットをギリギリまで閉ざしておく事で瘴気の侵入を最小限に抑える為らしい。準備が良いですねとアイデアに褒められたサフィールが嬉しそうだ。兄弟のやり取りを微笑ましげに眺めていたら袖を引かれて、見下ろすと膨れっ面のルシエラと面白くなさそうなナタリア達がいた。

「……どうした？」

問いかけても、答えは返ってこない。首を傾げていたら、坑道の入り口辺りが騒がしくなってきた。

「来たようですね」

「そのようだな」

現在この場には俺やナタリアを筆頭にキムラスカの未来を担う若手や、被験者イオン、ヴァン等のダアトの重鎮、アイデアにサフィールと言ったマルクトの重臣と、各国の要人にして預言を絶対視していない人間達が勢揃いしている。

預言遵守派が俺達を一網打尽に出来る機会を逃す筈はないだろうと網を張っていたんだが、見事にかかったらしい。キムラスカやマルクトだけでなく、ダアトも導師の説得でこちら側についた兵士達をアクゼリユスのそこに配置しておいたから、あちこちで戦闘が始まってるようだ。

しかし、充滿してる瘴気の予防対策をしてる俺達と違って、連中は対策の術が殆どないに等しいだろう（何せ瘴気中和や予防を研究してるのはこっちの仲間だ）からひょっとしたら来ないって事もあ

りうるんじゃないかと思つてたんだが、自分達の命より預言遵守が大事だったらしい。気付いてないって事もあるかもしれんが。

「サフィール、どうですか？」

「もう少しです。……タイマーをセットしました。十分後には全てのセフィロトが外郭大地と共に降下します」

「上出来です。お疲れ様、サフィール。さて、では十分以内に表のお馬鹿さん達を一掃するのでしょうか」

にこやかながら、目が笑つてないアイデアが言う。アデイスやレジフは表組みだから、案外あっさり片付いてる気がしなくもない。そして俺の予想は見事に当たり、坑道を抜け出た俺達が見たのはきちんと捕縛されながらも預言預言とわめき続ける預言遵守派の姿だった。

さて、わめく連中を黙らせ無事に外郭大地を降下させ終えて、魔界の大地を液化化させる原因であるプラネットストームも止めた。預言遵守派も殆ど捕らえる事が出来たから、残党処理は軍人などの専門家に任せて俺やナタリアは再び王族としての執務に戻っている。現在は執務の合間の息抜きにと王城の中庭でナタリア達とお茶中。子爵の位を賜っているアッシュとルシエラも登城していたので、今日はメルル含めて五人だ。メルルの淹れたお茶と、ナタリアが料理長に頼み込んで厨房で焼いたお菓子でのんびりしていたら、随分久々にローレライから通信が届いた。

何故アッシュ達ではなく俺に来るかと言うと、フォンスロットでの通信は加減がきかずに受信する相手に酷い頭痛を齎すかららしい。その点、俺になら魔大公達と使っている魔力の専用回線で通信が可能だから頭痛などの心配は一切ない。そんな訳で、ローレライの毒電波（アイデア命名）は俺の方に届く。

「？お兄様、どうなさいました？」

「……いや、ローレライが」

「あのクソツタレ第七音素の塊がどうかしたんですか？義兄上」

アツシユのローレライに対する印象は何故か知らないが悪いようだ。クソツタレ発言をメルルとナタリアから咎められて慄然としている。とりあえず、四人にローレライが地殻に封じられている事と何故か俺とルシエラに解放してほしいと言っている事を告げるとアツシユの眉間に大峡谷が刻まれた。

問答無用と言う感じで光と共に剣と宝珠が送ってこられ、父王や貴族達に相談した結果、まだ地上に残っている瘴気をどうにかする事を条件に解放に乗り出す事になった。やるのが俺とルシエラって事にファブレ親子が最後まで猛反対していたが……これはまあ余談でいいだろう。

《転生後のそれぞれの行動の軌跡&周囲の変化：預言の年の一年前
～ローレライ解放まで》

ルシファード・アキラ・キムラスカ・ランバルディア

預言の年に外郭大地降下作戦とかしたら預言とかぶるんじゃない？と言っ意見が出る。

アクゼリユスの瘴気が既にやばかった事もあり、早々に外郭大地を降下させる事に。

住民は煙々瘴気とわかった時点で避難済み。

預言遵守派を罫にかけて一網打尽にし、筆頭だったモースも捕らえる。

偽姫云々はナタリアとメルルが二人がかりで黙らせた。

プラネットストームの停止決定に伴い、シェリダン・ベルケンドは魔王が推し進めてきた新エネルギーの発見、開発に力を入れ始める。

何故か魔王とルシエラ（レプリカルーク）の所にローレライから鍵と宝珠が届き、解放に乗り出す。

ラルゴがバダックに戻るのもう少しかかるらしい。

イデア・デメテル・ネイス

降下作戦後、捕らえた預言遵守派の中にいたマルクト貴族を満面の笑みで自国に引き摺って行った。

ゼーマン参謀はイデアに後を任せて引退しようかと考えているらしい。

サフィールはシェリダン・ベルケンドの科学者達と研究を続けている。

脱走皇帝を捕まえるのはジェイドとイデアの役目。
譜業が進んでいない分、マルクトは科学者達をシェリダン・ベルケンドに留学させたり資金面での援助を行っている。

レジフ・ドラグナー

地下に潜伏した預言遵守派がいないか、傭兵仲間と探る日々。
血の繋がらない家族からは頻繁にダウトに就職してくれと言われているのかなだとか。

ケセドニアのアスター氏からはギルドマスターに就いて欲しいと言われているらしい。

アースラ・ノースフェル・フェレス

相変わらずサーカス団として各地を巡りつつ、現地の情報を各国要人に届けている。

実は降下作戦の噂を効率的に各地に広めたのはこの集団だったり。

アデイス・カーティス

国内に目を光らせると同時に、預言遵守派が一掃されて風通しがよくなりすぎた軍部の再建に奔走している。

一度国内で遵守派の残りが騒ぎを起こした時に庇った貴族のお嬢さんから求婚されたとかされないとか。

両親からは「孫はまだか」コールをいただいている。

魔王様 i n キムラスカ - 6 (後書き)

書ける時と書けない時の落差が激しすぎる今日この頃です。
所々知識が曖昧で怪しい部分もありますが、楽しんでいただければ
幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1952p/>

魔王様 in TOA

2011年2月8日16時23分発行